

恵みと真理のニュース



2014 年 12 月の一次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

【証】



私は高校卒業した後から神様と離れ教会を通わなく暮らしました。そうするうちにイエス様を信じない旦那に出会って結婚しました。生きる事が大変な時には神様を考え再び教会に行きたい心が切なかったですが足を運べませんでした。急に家庭で患乱がやって来て毎日が悲しくて苦しいでした。そのように体と心が倒れそう時に息子を産みました。

出産の直後、子供が息をしなかったです。医学的には死産とも言える危急な状況の時、短くても長い瞬間神様に祈りました。息子を助けてください助けてくださると神様に約束の祈りを捧げました。驚くことはお祈りを終えてすぐ赤ちゃんが“おぎゃあおぎゃあ”泣き始めました。神様は深い絶望の沼から落ちていた私を助けてくださり悲しみを喜びで変えてくださいました。しかし、息子が育ちながら精神的に不安定な姿を見せて外の人と違う行動をしました。どうやら妊娠期間に家庭のことで衝撃を受けました出産過程がよくなかったからだと思います。その事が息子の痛みになることを考えるととても苦しかったです。家計が苦しくて息子に専門的な治療と教育をさせられなかったです。

息子を育ちながら信仰が深くなりました。重なる苦難の中ではじめて神様だけを切に委ね仰ぎ強い信仰を持つようになりました。その時に旦那もイエス様を受け入れました。

息子のため命の源になり人間の生死を掌る神様に涙を流しながら祈りました。“イエスは婦人たちの方を振り向いて言われた。「エルサレムの娘たち、わた

患乱と病を通して神様の恵みと愛を深く悟り

真の霊的に新しい聖徒になりました。

しのために泣くな。むしろ、自分と自分の子供たちのために泣け。”（ルカによる福音書 23：28）とおしゃったイエス様の御言葉を考え叫びながら祈りました。そして“イスラエルの聖なる神、その造り主／主はこう言われる。あなたたちはしるしを求めめるのか。わたしの子ら、わたしの手の業について／わたしに命ずるのか。（イザヤ 45：11）”という御言葉を委ねて神様に息子の未来を頼りながら祈りました。息子が小学校に入学する頃周りの人々は特殊学校に送ることを進みましたが、私は神様が治療をしてくださる恵みで息子の状態が良くなることを感じ一般学校に送りました。礼拝に行くと熱心に祈り教役者達にも祈りを受けました。それで、神様を持続的に治療の手をだして下さり精神的に安定され行動も正常的に変わりました。健康になった息子は高校の時には教会で高等部のイクトゥス重唱団で奉仕して、青年になっては賛美宣教団で神様を賛美し熱心に仕え奉仕することをしました。息子と私は聖書大学院に入学して熱心に聖書を学んでいます。ハレルヤ！

息子の神様に対する信仰と愛がきれいで誇らしいです。息子を治療して下さり、尊い信仰と清い夢をくださった神様に感謝します。

神様は貧しい事を通して自足と感謝をする信仰姿勢を、問題を通しては神様の御心を求め慎重で賢明に対処する信仰姿勢を悟らせてくださいました。患乱を通して人間の軟弱と限界を悟られ神様の前にもっと近付き頼るようになりました。人に受けた傷を通しては赦しの心をくださり、寂しさを通しては人々を愛することを学ぶようにしてくださいました。病氣を通しては慈し

みと全能なる神様を体験させていただきました。驚くほど救いの恵みを与え真の変わった人生を生きるように導いてくださいました。以後、私の家族の人生を主に委ねただ主のために生きる事を決心しました。そして“まず神様の国と義を求めすることに心をつくし、そうしなくてもいつも感謝し最善を尽くして献身する生活に力を尽くしています。人生の目的と神様の前で人を本文を悟らせ、人生で経験することになるいかなる困難も十分に耐えながら乗り切れてことができる信頼を、その能力と知恵を下さる神様に感謝いたします。この証を読む聖徒にも祈りをお願いします。私は数年前から癌の闘病しています。乳癌で癌の細胞が肺に転移され酷い状態になりましたが神癒の御言葉を信じ神様の権能を頼り奇跡的な神様の治療を願っています。絶望したり落胆しませんでした。体力的に大変でも“私は癌患者ではない。神様の恵みで私は健康になる。”と肯定的で希望的な心を抱いて祈りながら聖霊の助けで健康なときのように礼拝と伝道に力を尽くしました。そんな私を神様にもっと外のところに癌の細胞が転移したり悪くならないようにしてくださいました。病弱でも日々私を掴んでくださり私に新しい力をくださって今日、聖書大学院で熱心に御言葉を勉強し区域のことに熱中するように導いてくださる神様を愛します。神様が私を呼ぶ日がいつか知らないが、いつまで抗癌剤を服用するか分らないですが、神様の属して痛みもない天国に入る瞬間主だけを望みながら日々時間を良く使って主の事に最善を尽くして生きます。神様、感謝します。

【信仰コラム】

尽くして愛しなさい



“イエスは答えられた、「第一のいましめはこれである、『イスラエルよ、聞け。主なるわたしたちの神は、ただひとりの主である。心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ』”(マルコによる福音書 12:29、30)

天国に入るためには必ず捨てるべきことがあり、必ず必要なことがあります。この 2 人はいくら重ねて強調しすぎることはありません。心に深く耳を傾けず、うわの空で聞く人がいる一方、誤った観念が慢性化された人がいるためです。

第一に、永生を得るには、誤った観念を果敢に捨てなければなりません。

“善良な行いが救援得る要件である。”という観念は救いを得るのに決定的な障害となっている誤った観念の中に一つです。人たちが、永遠と天国と救援に関して分かりたいことは古今東西が違わないです。一金持ち青年がイエス様にきて“私が何をすれば永生を得ますか？”と質問しました。彼はそれなりに善良なことに力を入れながら、宗教的戒律を守ってきました。しかし、その程度の行うことにより果たして永生を得ることができるか確信できない、自分の行為に対して、イエス様から肯定的な答えを得ようとしていました。神様は彼が人間の相対的な善を念頭に置いて、イエス様をそのような善を行う先生と考え、永生の真理を聞くようにし

ようとしたのはその出発点から間違ったことを先に指摘しました。人たちは、善をしきりに築けば、この線が自分の罪を相殺する結果をもたらすだろうという誤った考えを持ったりします。善良な仕事を通じて永生を得たり、救援に達したり、天国に行くという考えを持ったらこれはむしろ天国に進む道を封鎖する弊害をもたらします。

また、金もちの青年は“戒を守ることが救いの要件である。”という観念も持っていました。神が彼をそのような誤った認識と観念から逃れるようにするため、“君にむしろ一つ足りないものがあるから行って君にものを売り、貧しい者たちをくれとそうすれば空から宝が君にいとそして来て私を探しなさい。”しました。の律法に義理をすることになった人はありません。の律法は私たちが罪人のことを如実に露呈することにをします。そして多くの人たちが“全ての宗教は永遠に進む閉門だ。”という誤った認識と観念によって永生得る道に背を向けて滅亡の道に行っています。宗教多元主義思想に染まったキリスト教会の指導者たちは、このような誤った観念を教会に注入させる役割をします。真実のキリスト教徒たちはこのような人たちが教会を散らかさないように力をまとめて対処していかなければなりません。

第二に、永生を得るには、輝く日を受取るべきです。永生得る道は神様を愛することから出発します。神様を愛しには、まず神様の愛を受け入れなければなりません。人生を向けた神様の愛は人間の生存に必要なすべてのものを下さって治めていることが証明され

ています。私たちに示した神様の愛の圧巻は私たちが生かすために自分の一人っ子を世に贈ったものです。私たちが神様を愛するために神様が私たちが愛したことがありません。偶像崇拜と人本主義として生きていく人生のために神様が一方的に愛を施しました。このような神様の愛に気づいてイエス・キリストを出迎えし、信頼と感謝で生きていくものが神様を愛する基本姿勢です。神様を愛している姿勢は、99%ではなく、100%であるべきです。イエス・キリストに対する信頼 90%に、自分の行為 10%を追加すれば、神様を 100%愛しろと言う言葉を逆らうこととなります。イエス・キリストに対する信頼 99%に偶像崇拜行為 1%が加わると、偶像崇拜者扱いされてしまいます。神様を愛する人は神様を愛することが信仰の理由で目的です。

皆さんに少しでも誤った観念が残っていれば、これを根絶してしまってください。そして“あなたの心を尽くし、命を全うして、意を尽くし、力をふりしぼって輝く日を受しなさい。”と言った言葉通りに生きてください。イエス・キリストのほかには救援の術がないことを固く信じて伝播しながら暮らしていることを望みます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

患難をこんなに乗り越えなさい



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

私たちの一生にはまるで終りが見えない暗くて長いトンネルの中に入って来たような暗たんたる現実に処する時があります。重畳される患難と解けない問題を抱き締めて身悶えしてみると孤独と悲しみ、不安と怒りがごたまぜになって心を押さえ付けるようになります。困難な現実に心の不安と気落ちまで重なれば弱り目に祟り目の状態になります。なおかつ神様に向けた信仰が損傷されれば三重の災いにあうようになります。患難にあう時に心と信仰が揺れてはいけません。聖書に記録されるのを“油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。”(箴言 4:23) したし、イエスキリストがおっしゃるのを“「恐れることはない。ただ信じなさい。」”(マルコによる福音書 5:36) しました。患難の中にも安定した心と希望的な信仰を持つように力をつくさなければなりません。

詩編 77 編は詩編記者が患難に直面した時に懸念と不安、疑心と気落ちを寝かせて所望的な信仰を回復した体験的告白と証しです。ここには患難を対処する知恵が啓示されています。患難に会った人に慰労と力を得るようにするメッセージがあります。

詩編 77 編 1 節を見ると“わたしは神にむかい声をあげて叫ぶ。わたしが神にむかって声をあげれば、神はわたしに聞かれる。” しました。詩編記者は患難の日に神様を捜しました。神様に叫びました。

2 節を見ると“わたしは悩みの日に主をたずね求め、夜はわが手を伸べてたゆむことなく、わが魂は慰められるのを拒む。” しました。患難の日に煩惱を忘れて気持ち転換をするために娯楽を捜すとかお酒や麻薬を向けて手を突き出さなくて神様に切に求める手を突き出しました。しかし祈っても状況は好転しなくてむしろもっと悪くなりました。そのようになると疑心と気落ちの沼に落ちこみ始めました。そんなにして“私の魂が慰め受けるのを拒む”と言いました。“祈禱がすべて何の必要があるか、ただ時間の無駄です徒勞であるだけだ。” という考えが押し寄せればおさまりにくい心状態になります。

3 節と 4 節を見ると“わたしは神を思うとき、なげき悲しみ、深く思うとき、わが魂はおとろえる。あなたはわたしのまぶたをささえて閉じさせず、わたしは物言うこともできないほどに悩む。” しました。詩編記者は神様と係わって否定的考えをし始めました。神様が懲罰していらっしゃるという考えです。そして彼の叫ぶ祈禱に回答がないことは神様が顔をおおって彼をそっぽを向くからだというつもりです。そんな考えでよる不安と懸念で心霊がいたんで一息も寝ることができずに開く目で夜をあかしました。

患難にあつて神様を誤解するようになれば悲しみと不安が増幅されます。そんなにすれば頼らなければならない神様をむしろうらむようになります。患難の理由が神様にないです。神様にはどんな患難よりももっと大きい慰労のメッセージがあるだけです。

詩編 77 編 5 節から 9 節まで見ると“わたしは昔の日を思い、いにしえの年を思う。わたしは夜、わが心と親しく語り、深く思うてわが魂を探り、言う、主はどこしえにわれらを捨てられるであろうか。ふたたび、めぐみを施されないであろうか。そのいつくしみはどこしえに絶え、その約束は世々ながくすたれるであろうか。神は恵みを施すことを忘れ、怒りをもってそのあわれみを閉じられたであろうか。” しました。詩編記者はどうしようが心と信仰の沈滞から脱して見ようと試みました。そして昔すなわち以前日を考へて見ました。以前にも彼が患難と逆境にあつた時があつたことを回想しました。その頃暗たんした境遇でも絶望しなくて讚尿を呼んだことを憶えました。しかしそれでは慰労になることができなかつたです。今はあの時とは状況がとてつと違ふという気がしました。むしろもっと悲感に掛かるようになりました。そして愚かで否定的で悲観的な質問が相次いで起こりました。詩編記者は疑心の迷路に入って迷っていてからいよいよ解決の出口に出るようになりました。

詩編 77 編 10 節から 12 節まで見ると“その時わたしは言う、「わたしの悲しみはいと高き者の右の手が変つたことである」と。わたしは主のみわざを思い起す。わたしは、いにしえからのあなたのくすしきみわざを思いいだす。わたしは、あなたのすべてのみわざを思い、あなたの力あるみわざを深く思う。” しました。今までのすべての懸念、不安、悲しみ、挫折、疑心の原因が他にないで自分の弱さにあることを悟って認める瞬間彼は一帯ターニングポイントに立ち入るようになりました。すると彼は神様が彼の民たちの面倒を見た昔奇蹟を憶えて述べて深く黙想し始めました。患難にあつて神様を恨むとか原因を他におく間には私たちの心霊はますます混沌の沼に落ちて入ります。私たちが直面した都合と事情がいくら難しくても懸念、不安、悲しみ、疑心、気落ちが心に席を取ることができないようにしなければなりません。そういうものなどが心を占領することは他の誰のせいではなく自分のか弱さからです。この時に自分の懦弱さと信仰ないことを叱らなければなりません。それからは神様が行った昔奇蹟を憶えて述べてください。そのすべての事を黙想して神様の行事を深く考えてください。

詩編 77 編 13 節から 20 節に記録されました。“神よ、あなたの道は聖である。われらの神のように大いなる神はだれか。あなたは、くすしきみわざを行われる神である。あなたは、もろもろの民の間に、その大能をあらわし、その腕をもっておのれの民をあがない、ヤコブとヨセフの子らをあがなわれた。神よ、大水はあなたを見た。大水はあなたを見ておののき、淵もまた震えた雲は水を注ぎだし、空は雷をとどろかし、あなたの矢は四方にきらめいた。あなたの雷のとどろきは、つむじ風の中にあり、あなたのいなずまは世を照し、地は震い動いた。あなたの大路は海の中にあり、あなたの足跡はたずねえなかつた。

あなたは、その民をモーセとアロンの手によって羊の群れのように導かれた。” エホバ神様の昔奇蹟を回考しながら述べて深く黙想すれば結局考えが神様に集中するようになります。

第一、聖なる偉い神様を思うようになります。

第二、権能で奇蹟を行つて主の民を救われる神様を思うようになります。第三、私たちを牧者のように導く神様を思うようになります。詩編記者がこのような神様を深く考えるようになると心から不安と疑心が退いて安堵感が波のように気に押し寄せて来ました。彼をいじめた愚かな疑心の質問はむしろ信仰を告白することができる機会を提供するのがなりました。愚かで否定的で悲観的な質問に対して賢明な返事ができるようになりました。

詩編記者といっしょに愚かな質問に対して賢明な返事をして見ましょう。提示される質問に対してその答を読んでください。

“主が永遠に捨てたんですか?” “そうではないです。私たちが神様を排斥しない以上神様は私たちを捨てなくて去りません。‘主はその民を捨てず、その嗣業を見捨てられないからです。’(詩編 94:14) しました。” “ふたたび恵みを施さないというのですか?” “そうではないです。‘願わくは主がみ顔をもってあなたを照し、あなたを恵まれるように。’(民 6:25) おっしゃいました。” “その善良で慈しみ深さを永遠に切ろうとするのですか?” “そうではないです。‘しかし主のいつくしみは、どこしえからどこしえまで、主を恐れる者の上にあり、その義は子らの子に及び、’(詩篇、103:17) おっしゃいました。” “その約束をこれからは廃したことですか?” “そうではないです。‘神は人のように偽ることはなく、また人の子のように悔いることもない。言つたことで、行わないことがあろうか、語つたことで、しとげないことがあろうか。祝福せよとの命をわたしはうけた、すでに神が祝福されたものを、わたしは変えることができない。’(民 23:19) しました。” “神様が恵み施すことを忘れたんですか?” “そうではないです。‘わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には恵みを施して千代に至るであろう。’(申命記、5:10) しました。” “怒つてそのあわれみを阻んだんですか?” “そうではないです。‘主は常に責めることをせず、また、どこしえに怒りをいだかれない。’(詩篇 103:9) とおっしゃいました。”

聖徒の皆さん、患難にあつて困境に処する時一番重要なことは皆さんの心を守りながら信仰を守る事です。皆さんの心に悲しみ、不安、疑心、気落ちが落ちてくることができないようにしてください。もしそうなものが席を取るようになつたらそれは誰のせいでもない皆さん自分のせいです。その時には皆さん自分の軟弱を叱ってください。そして至尊者の右手の日すなわちエホバの昔奇蹟を憶えてその行った事を述べて神様のすべての事を黙想して神様の行事を深く考えてください。そんなにすれば聖なる偉い神様、権能と奇蹟を行う神様、神様の民を救われる神様、神様の民を牧者のように導く神様に対する信仰で充滿するようになるでしょう。そして不安と疑心から始まる愚昧な質問を一切適切に掃いてしまつて所望と確信の心で生きて行くように願います。